

## 資料①：第 4 回会議の議事録

(平成 29 年 3 月 8 日開催)

平成 30 年 1 月

南 城 市

1. 南城市地域公共交通網形成計画(素案)について

番号	委員	事務局
1-1	「おでかけなんじい」の利用者数は、未就学児の利用者数も含めているのか	未就学児の利用者数も含めている。
1-2	南城市の人口と市内外のトリップを示した図がある。人口が少ない地区を起点としたトリップはでていないが、人口が多い地区を起点としたトリップがでていない。	→トリップは18区分、人口は行政区別なので、ズレが生じていると思う。 →後日対応、サンプルの拡大を従来の性別・年代別から18地域区分別・年代別に修正。
1-3	市内の移動について、「不明」の回答が多い理由を教えてください。	→アンケートで市内への行先を質問したところ、住所が判断できない表記や商業施設等の店舗が判断できない回答が多かった。
1-4	施策で挙げている上限運賃300円は市内路線バスでの運賃設定なのか。	これからの検討であるが、市内路線バスでの上限運賃300円を考えている。
1-5	デマンドバスはH38まで継続運行するのか	バス路線等の公共交通を補完するような形で運行したいと考えている。
1-6	合併前にバス路線網の再編の検討はあったのか。	合併前にバス路線網の再編の検討はなく、今回の網形成計画策定の検討が初めてである。
1-7	路線バスの利用状況のデータは、利用率よりも分担率の表現が適切かと思う。	修正する。
1-8	その他の市内移動をデマンドバスが担うという表記があるが、交通弱者等を対象にデマンドバスで補うという表記が適切かと思う。	修正する。
1-9	南城市民の与那原町への移動ニーズについて教えてください。	与那原町は、知念高校や商業施設、与那原中央病院等もあり、特に市の東側の佐敷や知念は移動ニーズが高い。
1-10	合併後も路線バス網の再編も行われず、市内への移動が困難な状況とあるが、適切な表現に変えて欲しい。	表現を工夫する
1-11	既存のバス路線は市外を経由したルートである。南城市が現在考えている中核地と那覇市を結んだバス路線は、他の市町村を経由したルートなのか。それとも、既存のバス路線のルートとは別で、那覇市と中核地を直行で結んだイメージなのか。	既存のバス路線も活かして、南城市と那覇市を結ぶルートをイメージしており、中核地を乗り継ぎ拠点にしたいと考えている。

番号	委員	事務局
1-12	中核地は乗り継ぎ拠点や賑わい拠点になると思う。商業施設の誘致がポイントになると思うが、特に力を入れていくのか。	先導的都市拠点の土地利用と公共交通の再編は重点的ポイントと考えている。
1-13	デマンドバスの運行車両に関して、予備車の記載をして欲しい。	表現を見直す。
1-14	安座真船待合所への路線バスの乗り入れが示されているが、道路状況や渋滞を考慮して欲しい。	参考にする。
1-15	割引運賃の導入に関しては、行政とバス事業者でしっかり調整を行って欲しい。	バス事業者としっかり調整を行いたいと思う。
1-16	バス事業社 3 社のバス車両が収容できる規模のバスターミナルを想定しているのか。	今後の検討内容になってくるが、バス事業社 3 社が中核地に集約するので、規模をしっかりと考えていきたい。

## 2. 「おでかけなんじい」の増減便ルールについて

番号	委員	事務局
2-1	3台から4台への増便の基準が4.0人/台ということで、4.0人/台とは、実行可能な数字なのか。	平均での4人乗車はなく、3台から4台への増便基準が4.0人/台というのは実際ハードルが高いかとも思う。
2-2	おでかけなんじいは国の補助を受けているので、1年に1回見直しを行うとあるが、見直しは1年に1回でいいと思う。ただし、見直し実施の点検や検討は半年に1回で実施して欲しい。	実施は1年、点検は半年で対応したい。
2-3	20時台に使われている乗降客の目的を教えて欲しい。	実際利用した人から話を聞いた分での回答になるが、飲み会や公民館での囲碁等のサークル活動での帰りで利用している人が多いと聞いた。
2-4	土曜日16時台と18時台は、2台から3台への増便基準となっている。整理方法を教えて欲しい。	時間帯別の運行台数に凸凹を生じないように柔軟に基準を運用となっている。その時間帯だけの増便が難しく、連続した時間が増便対象になれば、再度検討していきたい。

## 3. 平成29年度の「おでかけなんじい」の運行計画(案)について

→原案で問題ないことを確認